



委員会等活動成果

国際関係委員会 欧州調査部会

“The Actuary”の記事紹介

Pick Up

英国アクチュアリー会月刊誌「The Actuary」2004年6月号から

2004年7月1日

統合リスク管理 Enterprise-wide risk management

統合リスク管理（ERM：Enterprise-wide risk management）とは、投資（市場）リスク・信用リスク・ALMリスク・保険引受リスク・オペレーショナルリスクといった保険会社が直面するリスクを総合的に管理する活動のことである。

The Actuary 6月号の記事では、英国の統合リスク管理を取り巻く環境について説明すると共に、PricewaterhouseCoopers社が世界の44の保険会社を対象に行った「保険産業のERM」という調査に基づいて、ERMへの取組状況や認識および今後の課題等についてレポートしている。

●英国の保険会社を取り巻く環境

英国の保険会社やロイズ市場は、新しい監督体制に間に合うように内部資本評価（ICAs：internal capital assessments）の開発に注力している。

また、最近の諮問書（Consultation Paper）（注）によれば、FSAは保険会社がリスク管理モデルを経営戦略と一体化させることを歓迎しており、より低い個別自己資本要件（ICG：individual capital guidance）を適用できる可能性も示唆されている。こういった状況がICAプロセスを日々の経営管理に取り込む明確なニーズをもたらしている。

●ERMに対する保険会社の現状

回答者の80%は、リスクのポートフォリオ的な見方を上級管理職に伝えることがERMの目指す重要な到達点であると考えており、50%は、ERMの重要な利点は株主価値の保護にあるとみている。



一方、保険会社は ERM に強いコミットメントを持つものの、ERM の設計・企画・定量化といった段階から次の段階に進めるよう努力している状況にある。すなわち、戦略的な意思決定と ERM が統合されていると言い切るにはほど遠い状況であることを理解している。

また、回答者は、ERM の様々な面について行うべきことが、まだ数多くあると考えている。

●ERM 調査の結果から

戦略的経営管理とより密接に統合されると ERM の発展は加速されるようである。

経営者と上級管理職が健全な企業統治を行っていることを証明するために最も効果的な方法は、利害関係者が期待する業績を挙げることである。効果的な ERM は、「業績目標を達成するために取っているリスクの量」や「リスク管理を柔軟かつ効率的に行える組織態勢となっているか」といった点に対する明確な見方を与えることで、その証明をサポート可能である。

(注) CP190 (損害保険会社に関する資本要件の強化と資本評価について)、CP195 (生命保険会社に関する資本要件の強化と資本評価について)

原文をお読みにになりたい方は英国アクチュアリー会の HP をご覧下さい。

<http://www.the-actuary.org.uk/>

"Enterprise risk management"